

## ◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 和光・緑と湧き水の会

26A-17

代表者：代表理事 高橋 絹世

URL : <https://www.wako-wakimizu.org/>

### 1. 活動が必要とされた状況

和光市は東京都に隣接し、都市化が急伸する中、白子湧水群の環境維持を進めている。周辺地域の建設ラッシュにあっても、地域の自然特徴的な湧水緑地を、今まで以上に地域に根差した子どもたちに身近な自然として触れられるように保全し、その重要性を広く発信する必要があった。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）



一つ目。富澤湧水を明示する看板を設置する事業を進めた。各地の看板を観察し、色、文字、看板による雰囲気づくりを考慮し決定。湧水近くの道路から見やすい場所に設置した。駐車場奥に流れる湧水は地域の大切な環境であることを地権者に提案し、了解を得、通行人に「清らかな水」と印象付け、地域の魅力白子宿であったことも加え、5月30日に設置完了。

二つ目。長年調査研究し、和光の湧き水の特徴を理解し、教員研修や大学の地理学巡検でも発信してきたが、子どもにもわかりやすい絵本と紙芝居『ぼくのゆめはわき水になること』にまとめ出版した。子供向けに物語の発展や展開を考え、雲、雨、地下水など水循環、地層等、多くのテーマを組み込み、「ぼく」が大冒険する構成となっている。幼児から小学生まで楽しめ、学校の教材にも活用できる内容とした。絵本はA5サイズ12頁ハードカバー、紙芝居は同一内容をA3版に拡大。絵本は100部印刷して和光市教育委員会を通し小学校9校や2図書館、3公民館、2冊ずつ配布した。紙芝居は10セット作成し、フィールドワークなど湧き水の仕組みの説明に活用している。



絵本『ぼくのゆめはわき水になること』(A5サイズ、全12P)

### 3. 活動の成果

一つ目の事業の看板設置後は、通りを行き来する人を観察していると、看板の案内を見て湧き水を確認している人達がいることがわかる。また地域ケーブルテレビ JCOM の富澤湧水での取材を受け、2023年5月16日に放送され、きれいな湧き水で潤う環境があることなどを伝えられた。看板設置後は、相乗効果で湧水地が知られることとなった。二つ目の事業である絵本製作については、白子小学校で、4年生の地域学習「湧き水観察会」が11月に開催され、この絵本と紙芝居を紹介したところ、早速各クラスの授業で紙芝居と絵本を活用し、その後の観察会でも大いに役立てられた。富澤湧水近くのゆめの木保育園では、観察会で紙芝居を披露したところ、園児たちの関心が進み今後継続事業となった。

### 4. 今後に残された課題

絵本の配布先が部数の関係で、公共施設や学校などに限られたため、一般家庭や地域の子どもが集まる場所（学童や集会所）など、より多く配布し、読み聞かせなどで、理解が深まると考えている。今後冊子の増刷、紙芝居の充実を進め、また絵本の続編の作成も検討している。また、当会員の次世代の育成や活動拡大に向けても活用が期待される。